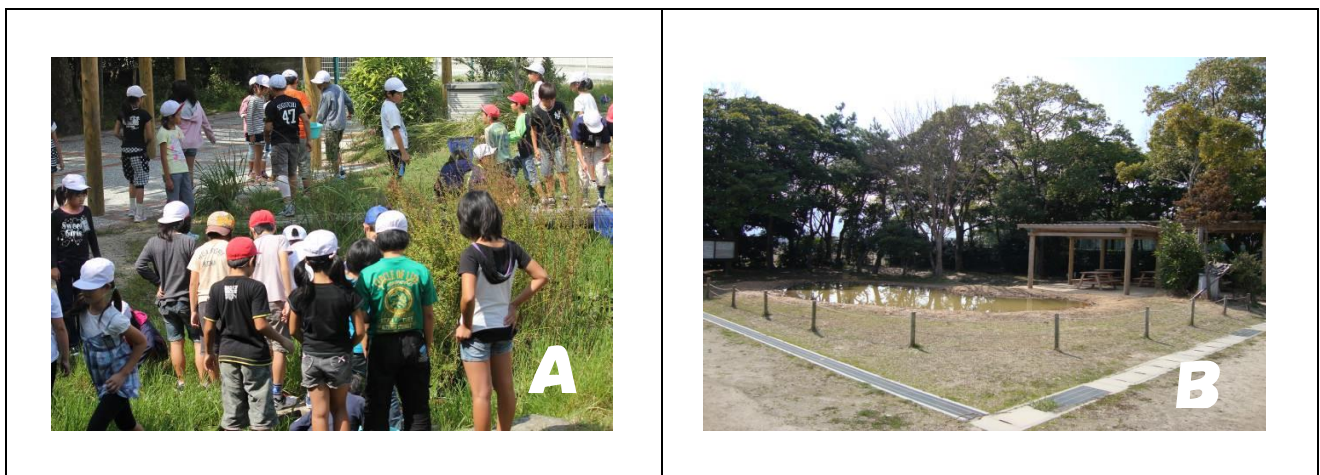


成果報告書 概要

2010年度助成		(実践期間：2011年4月1日～2012年12月31日)	
タイトル	主体的に学び、自ら実践しようとする児童の育成を目指した環境教育		
所属機関	北九州市立 曽根東小学校	役職 代表者 連絡先	学校長 林 紀代子 093-472-8808

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	第4学年・第5学年	教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
中学生	ソネットビオトープを再生しよう	子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
教員		ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
その他		○ その他



実践の目的：	学校内での自然に関する学習の場として、「ソネットビオトープ」がある。しかし、近年は、児童の休み時間の遊び場でしかない状況にあった。このビオトープを整備すると共に、隣接した東屋を、校外における環境学習の拠点としての学習の場にするを目的とした。
実践の内容：	整備前のソネットビオトープAについて、専門的な知識を持つNPO法人アサザ基金の方々の指導の下に、生息している生き物について調べた。これを基に、本校の環境教育にあった新しいソネットビオトープBを児童とともに考え、整備し、さらに観察を続けることによりふるさと曽根の環境から地球規模の環境まで視野を広げさせる。
実践の成果：	本校のソネットビオトープを詳しく調べると、生き物の減少という地球環境と同じ課題を抱えていることを児童も実感した。まさにソネットビオトープで起きていることと曽根干潟や地球で起きていることは、直結していると考えることができた。これらを通して、児童自身が環境に関する活動に意欲的であり、かつ自然な形で取り組めるようになった。
成果として特に強調できる点：	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が地域や自然の事象に対して、主体的な関わりをもちながら、学習を進めるようになったこと。 ○ 環境の視点から授業づくりをしたことで、いろいろな場面で環境に気を配り、自ら行動する社会の一員としての基盤づくりができたこと。 ○ PTAをはじめ地域の方々との連携を図り、3Rの活動等を日常的に行い地域の教育力も高まっていること。

成果報告書

2010年度助成	所属機関	北九州市立 曽根東小学校
タイトル	主体的に学び、自ら実践しようとする児童の育成を目指した環境教育	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

西日本有数の干潟である「曽根干潟」を校区に有する本校では、長年環境教育に力を入れてきた。干潟に棲息するカブトガニの他、干潟に注ぐ貫川やクリークにも多くの稀少生物が棲んでいる。この恵まれた地域の自然を生きた学習素材とし環境教育取り組んでいるところである。これらの生き物の飼育・観察・調査活動を継続し学習を深める一方、児童の発案で始まった干潟の環境を守るための年2回の「曽根干潟クリーン作戦」は、本年度で20年間続く地域も巻き込んだ一大行事となっている。また、数年前からは、自然を守るために自分たちにできる身近なエコを考え実践する「省資源・省エネルギー」の環境教育にも力を入れている。さらに、環境省が進める「学校エコ改修と環境教育事業」の指定を受け、「夏涼しく、冬暖かい、環境に優しい校舎」への大改修も平成20年に完成し、この校舎を学習材としても活用している。ふるさとである地域を愛し、学校を愛し、将来に渡って環境美化・保全に務めようとする実践的な児童の育成を願っている。

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

学校内での自然に関する学習の場として、本校の校庭の隅に保護者・地域の協力のもとに設置した、世界的にも貴重なニッポンバラタナゴ繁殖のための「ソネットビオトープ」がある。しかし、近年は、初期の目的からは程遠く、児童の休み時間の遊び場でしかない状況にあった。また、手入れが行き届かず植栽が枯れたり、水が濁ったままだったり、ビオトープの整備に取り組む必要があった。そのため、このビオトープの整備と共に、ビオトープを生かした環境学習の場を整え、ビオトープに隣接した東屋を、校外における環境学習の拠点としての学習の場に改装し、全学年で有効活用したいと考えた。

昨年度は、本市教育委員会の提案型事業「未来をひらく学校づくり支援事業」で、東屋の改装のみ実現となった。また、ビオトープの整備にはNPO法人アサザ基金による指導を仰ぎながら実施した。併せて、日産財団からの助成金で東屋にテーブルや椅子を設置し、屋外学習ができるような環境整備を行った。そこで、本年度はこの「ソネットビオトープ」に注目して、学習を深めることとした。

3. 実践の内容

「ソネットビオトープを再生しよう」第4学年～第5学年

1. ソネットビオトープを再生するために、今のソネットビオトープの様子を調べよう。

○生き物を採集する



2. 採集したソネットビオトープの生き物について調べよう。

○体のつくり

○すみか

【疑問】体のつくりとすみかや暮らしには、何か関係があるのでは・・・



メダカとコイの体のつくりとすみには関係があるのだろうか・・・

《子どもたちが仮説を立て考える。》

⇒ ソネットビオトープの様子から学校の自然環境がよくわかる。



3. 曾根東小学校の生き物が少ない！本当に豊かな自然なのか（生き物は、移動してやってくる）ソネットビオトープ これだけ少ないのは、おかしい！



子どもたちの課題となる。「なぜ、生き物が少ないのか。」
様々な要因をさぐる。（自然学習のきっかけ）



※日本中の生き物が減っている。水辺の多い曾根干潟の生き物も減っている。

1. 仮説を立てよう
2. リトマス試験紙を使って土を調べよう。
3. ソネットビオトープの底の状態をみてみよう。（何か、大きな魚がいるのでは。）
4. 生き物調査をしてみよう。等

曾根東小のソネットビオトープは、地球環境と同じ課題を抱えている。ソネットビオトープで起きていることと地球で起きていることは、直結している。曾根干潟で起きていることも同じ。生き物に変化が起きている。

4. ソネットビオトープの再生

曾根東小学校の環境に適したソネットビオトープを児童の手でつくる。

専門的な知識はアサザ基金の先生や本校の職員に教わりながら生き物の特性をもとに、それぞれが共生していけるためのビオトープの深さや形を考えた。

次に、そこに生息できる植物を植える。ソネットビオトープの外観が完成し、そこにメダカのみを入れた。環境を整えば、生き物は移動してやってくる予定である。



4. 実践の成果と成果の測定方法

本校の研究は、①地域の学習材を中心に据え、各教科等との関連性を図る。②活動や体験を重視する。③地域素材の見直しをする。④学校施設を活用した自然エネルギーや省エネルギー等について学ばせる新たな教材開発をする。⑤自己評価を促す学習カードの開発をする。⑥家庭や地域社会等との連携を図る。⑦北九州市教育委員会の指導主事や環境局及び関連機関等の外部講師を積極的に招聘する。以上7点を踏まえて、本年度は自然領域と省資源・省エネルギー領域の内、省資源・省エネルギー領域を中心に生活科及び総合的な学習の時間の授業を公開し、研究を深めてきた。

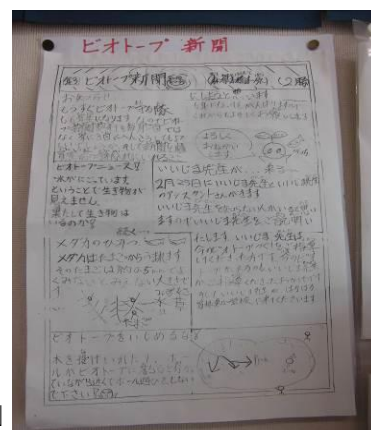
また、ソネットビオトープの再生や隣接する東屋の教育環境を整え、校庭での学習活動がスムーズに行えるようにした。(写真左は机・椅子がないため野外でのノート整理等が不自由だったころ



写真中はソネットビオトープ横の東屋に設置された机と椅子でノート整理をしている様子、写真右は設置された机と椅子) その結果、その場で感じたことや観察したことなどを、教室まで戻らずその場ですぐにノートやプリントに記録することができるようになった。

本校は低学年より、学校内の自然からはじめ学校周辺のクリークに棲む生き物を調べたり、干潟に注ぎ込む川の調査を行ったりする等、体験活動を重視しており、東屋での経験が野外活動での記録等の基礎となった。

また、現在の5年生は4年生の時からソネットビオトープの再生に係わっているため、愛着が生まれ、自主的に「ビオトープ守り隊」を結成して、様子を観察したり、新聞を発行したりするなどの自主的な活動も行っている。



本校児童の発案で始まった年2回の「曾根干潟クリーン作戦」は、今では20年目を迎え、保護者・漁協・自治会・保育園・行政・企業等、総勢600名を超える地域の一大イベントとして根付いている。児童がランドセルにクリーン作戦を呼びかける手作りポスターを貼り、地域に連携を図っている。この活動は、地域の美化運動を活発化すると共に、ここ10年ほど減少したカブトガニが、産卵に訪れるようになるなどの成果が見られている。(新聞・テレビで報道、市及び県の情報誌で公開、社会科の教科書及び業者テストで使用など)



これら6年間の学びの集大成として6年生が「地域環境フォーラム」を開催し、学習の成果を発表すると共に、地域の方との意見交換等を行っている。

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

2年間の活動を通して、本校に於ける恵まれた自然環境が、より児童の身近に感じられるようになったことは大きな成果である。子どもたちの大好きな遊びの場であるソネットビオトープが、生きた学習の場へと変化した。ビオトープの整備やビオトープ周辺の学習環境が整い、本校の環境教育推進に大いに役立った。「ビオトープ」の再生は、本校の児童にとって大変意義あることであった。

本校区は、曾根干潟を有しており、国内有数の野鳥の越冬地である。絶滅危惧種のカブトガニも生息している。その曾根干潟の環境を守るクリーン作戦にも地元の方々や近隣の保育園等と20年に渡って取り組んでいる。エコ校舎を生かした環境教育にも目を向け、自主的な活動や実践も継続している。これらの学習や活動により、理科や環境教育の学習に児童が主体的に学び、地域の環境に対する興味、関心も非常に高まっている。

本実践を通して、①主体的な関わりをもちながら、学習を進めるようになったこと。②環境の視点から授業づくりをしたことで、いろいろな場面で環境に気を配り、自ら行動する社会の一員としての基盤づくりができたこと。③PTAをはじめ地域の方々との連携を図り、3Rの活動等を日常的に行い地域の教育力も高まっていること。等の成果があった。小学校を卒業し、将来にわたって、環境を考えた生活をしていける人の育成となりうる研究としていきたい。

今後の課題としては、今回再生した「ソネットビオトープ」をどのように維持・管理していくかである。今回の助成金で、ソネットビオトープ周辺の環境が整い、本校の環境教育の推進に大いに効果をあげることができた。児童の学習活動を保証していくために、維持・管理を確実に行っていかなければならない。そのための管理費をいかに工面するかが、当面の大きな課題である。

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載されたり放送された場合は、ご記載ください

- ・環境教育についての取組は学校便りに載せて保護者や地域に発信している。
- ・本年度の環境に関する受賞として「福岡県循環型社会形成推進功労者として福岡県知事賞」「3R推進功労賞として文部科学大臣賞」「校区まち美化レポート市長感謝状」をいただいた。これらも学校便りで保護者や地域に発信している。
- ・国際交流としてJICA交流会を2回、韓国の小中学生との交流会を行い、その様子がテレビ西日本と西日本新聞で取り上げられた。
- ・「曾根干潟クリーン作戦」は毎日新聞に取り上げられた。

7. 所感

今回、日産財団からの多大なる助成をしていただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。また、本校は当初の計画を変更し、助成を受けることになりました。様々な面でご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。変更を許可していただきましたことに対しても、大変感謝しております。

本校では、今後も恵まれた地域の自然を生かした「環境教育」の推進に取り組んでまいります。今回の助成で整った「ソネットビオトープ」を環境教育の学習の場・拠点として活用して参ります。

日産財団の皆様には、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。